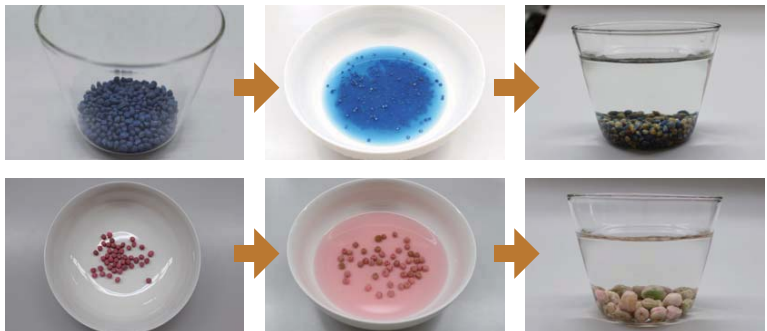


EMをつかって、健康的な種子処理をする

「購入した種をこれから蒔く」とき

- ① (殺菌剤などの農業コーティングされた種の場合のみ)
EM活性液(100倍希釈くらい)で2、3回ほど丁寧に洗う。



農業(チウラム、キャプタン)処理されたホウレンソウの種で試してみました。粒が小さいので、米を研ぐような感じで洗います。粒が小さいと、結構大変。やっぱり、農業不使用の種を買ってきた方が早いですね。

農業(チウラム)処理されたスナックエンドウの種でも試してみました。粒が大きくても、洗うのはそこそこ大変でした。着色剤は落ちましたが、農業は洗い落とせない可能性が高いです。

- ② 500倍～1000倍希釈のEM活性液に浸漬して、EMをしっかり吸わせる。

蒔きやすいようにペーパータオルなどで軽く水をふき取り、EMセラミックスパウダーを軽くまぶして、速やかに蒔く。



一晩浸漬後。

ペーパータオルで軽く水を切る。

適当量のEMセラミックスパウダーを少し入れる。

袋の中でまんべんなく混ぜ合わせれば準備完了。



一晩浸漬後。かなり吸水して、大きく膨らんだ。

「自家採種した種を保管する」とき

EMセラミックスパウダーをまぶして、湿気を避けて、低温で保管する。



たねの生態

種は乾燥しているときは、最低限の呼吸をして体力を温存しています。そのため、種を保管するときは、呼吸が少なく済むように、低温にしてあげるのが常識です。ただし、その植物が熱帯のものか、寒冷地のものか、その種類によって最適な保管温度は異なります。

また、種は一度水を吸うと、眠りから覚め、活動を開始します。発芽に向けて活動を開始した後で水分が切れてしまうと死んでしまいます。保管中に湿気ってしまった種は発芽率が落ちてしまうので気をつけてください。

使用したEMセラミックスパウダー
「EMスーパーセラ発酵C」1kg/2,625円

EM家庭菜園講座

VOL.12

比嘉照夫教授 監修

たねから考える 健康管理

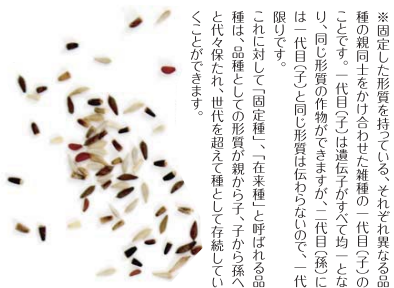
あなたの家庭菜園で無農薬・無化学肥料で大切に育てられている野菜は、最初どんな姿の種だったのでしょうか。自家採取した、自然のままの種でしたか？それとも、お店で買ってきた、カラフルに薬剤コーティングされた種でしたか？



市販の種の多くは、大量生産のために海外の広大な採種用の畑で農業と化学肥料を使って栽培されています。そして、殺菌剤などで被覆され、あなたの手元に届くというわけです。今度、種を買うときには、包装を良く見てください。種子にどんな農業を使ったかが書かれています。カラフルなのは誤って口にしないように着色剤が使われているからです。

化学肥料・農薬がよく育つ個体から種子選抜を繰り返していくと、ある限界に達したとき、化学物質過敏症の人が拒否反応を起こすレベルで、異質な成分をつくるような個体を選抜することになる可能性があります。さらに、F1品種をつくる品種改良と組み合わせること、その異常が増幅される可能性もあります。

種を被覆している農薬は、たとえ微量であっても、種そのものや発芽した後にも影響を与えます。過敏な人に影響が出ているだけで、一般に目立った異常反応が出ないと言っても、無毒であるとは言えません。影響が無いのではなく、その人の許容範囲内で表面上は影



響がないように見えているに過ぎません。健康に悪いものは摂らないほうがよいのは当然です。種を購入する際は、なるべく薬剤処理していない有機栽培された種を選ぶようにしたいものです(公益財団法人 自然農法国際研究開発センター)で入手可能。その次は、ぜひ自家採種にも挑戦してください。EMを使って育てると比較的簡単にできます。

農薬コーティングされた種でも、EMを徹底して使って栽培すれば、害はある程度回避できます。しかし、更に徹底して、害をなくしたい場合は、種のうちからEM処理をすることをおすすめします。

※固定した形質を持っている、それぞれ異なる品種の雄同士を組み合わせた雑種の一代目子(子)のことです。一代目(子)は遺伝子がすべて均一となり、同じ形質の作物ができますが、二代目(孫)には、一代目(子)と同じ形質は伝わらないので、一代限りです。